

論文の要旨  
Summary of the Dissertation

Name  
氏名 石井 洋 Seal □

論文題目：  
Dissertation title:

ザンビア授業研究における数学教師のアセスメント・リテラシーに関する研究

本論文は、日本の授業研究モデルを導入したザンビア共和国において、文化性の差異によって授業改善サイクルが軌道に乗らない状況を鑑み、その打開策として教師の評価力に着目したものである。これまで教師教育研究において意識されてこなかった教師の評価力について「アセスメント・リテラシー」という観点で構成要素を整理し、授業研究における教師の授業観の変容について考察することを目的とした。

まず、教師の評価力がこれまで顕在化してこなかった背景について、教育評価のもつ「価値判断としての評価」と「指導目的としての評価」という二つの側面に着目して考察し、これまでの教育評価は「価値判断としての評価」が一般的であり、その妥当性や信頼性を保持するため、客観性が求められ、どの教師が評価しても同様の結果となることが要請されていた点について指摘した。教師のアセスメント・リテラシーの構成要素を考察するにあたっては、これまでの枠組みにおいて、教授的力量における「生徒についての知」に限定して論じられていた点を示し、単にそれだけではなく教科内容や教授方法の知と相互に関連した複合的知識として捉える必要性を明らかにした。また、それらは常に評価の価値との往還によって行われているため、それを反映する形で構成要素を整理した。

そして、そのアセスメント・リテラシーの調査枠組みに基づいて、ザンビアにおいて授業研究のフィールド調査を行い、授業改善の実態や教師の授業観の変容を捉えた。従来型の授業研究では、教師たちの課題意識が一般的な教授法に偏っており、生徒の実態はもとより教科内容や教材についての発言がほとんどなされていなかったが、アセスメント・リテラシーの育成に焦点を当てて進めた授業研究では、教授法のみならず、教科内容(分数の内容)や教材についての発言にまで広がっていた点が確認された。指導案作成時に生徒の実態把握を通して気づいた点を踏まえながら授業を設計していたことも確認され、評価を導入し、教師のアセスメント・リテラシーを刺激したことによって、生徒の意味理解を意識した授業観の変容が同定された。また、レディネステスト分析後の授業改善には、同僚教師たちの気づきが反映されていたことから、教師のアセスメント・リテラシーの向上には、授業研究という集団における学びが促進要因となることも確認された。授業研究はアセスメント・リテラシーの向上に影響を与え、また、アセスメント・リテラシーの向上は、授業研究をより活発にするという、その双方向性が明らかとなった。

あわせて、国際教育協力における大局的な授業改善の方向性について、当該国の文脈性を意識した授業研究のあり方を考察した。授業研究導入にあたっては、日本の授業研究において通常議論にならないことでも、他国との差異を意識して進めていく必要があり、生徒中心型の教授法の導入の困難性は、その課題が顕在化したものである。先進国の文脈のもとで生成した生徒中心型の教授法の導入にあたっては、途上国教師の単視眼的な見方から、目の前の生徒の実態を捉え、教科内容や教授方法とも関連させた複視眼的な授業設計、実践への転換の必要性について提案した。